

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理演習Ⅰ	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	文献や資料の十分な収集、定性的又は定量的なデータの統計解析は、新たな福祉ニーズの発見や既に提供されているサービスの適切さなどを評価するために重要な手段である。ここでは、初心者を対象にインターネットでの情報収集、電子メールでの文書作成や、表計算での定量的な処理などを学び、演習を主体に学修していく。	
授業の到達目標	インターネットでの情報収集、電子メールでの文書作成や、表計算での定量的な処理方法の習得を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。		1
「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。		1
「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。		1
「著作権について」 文化庁のWeb 等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。		1
「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。		1
「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。		1
「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身に付ける。		1
「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。		1
「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。		1
「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。		1

「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。	1
「総合演習」 本演習で利用したソフトウェアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。	1
レポート作成、添削指導	15
計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	文章表現
担当教員の実務経験	
対象学生	心理福祉学科1年
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学修していく。
授業の到達目標	文学的表現や美文調の修辞等ではなく、簡潔で明快な表現法を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	前田安正『きっちり！ 恥ずかしくない！ 文章が書ける』(株)すばる舎。
授業上の注意点	
授業計画（内容）	
レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。 いま、文章力がものすごく必要になっている。仕事でも私生活でも、書く機会が増え、ビジネス上の報告書でも近年、いちだんとの確な説明が求められるようになった。三段構成のレポートを参考にして、レポートの形式をまず理解する。	1
レポートで必要とされる文章を知る(テキスト『巻末：起承転結』) 三段構成はコンパクトだが、慣れたら、もう一段ハイレベルな書き方をマスターする。代表的なのは起承転結の四段構成である。「起」＝立ち上げる。扱ふ。かける。「承」＝受け継いで、進展させる。「転」＝場面や話題を転じ、趣きを変える。変化をつける。「結」＝全体をまとめる。結ぶ。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 1～5「文章の基本構造：主語と述語をしっかりと対応させる」 一つの文にいくつもの内容を盛り込むと、主語と述語が入り交じり文意が通らなくなることがある。「一つの主語に述語は一つ」を意識して、主語と述語をしっかりと対応させるようにする。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 6～10「助動詞、受身表現、読みやすい文章の特徴を知る」 読者は文を読みながら情景をイメージしていく。同様の言葉を連ねるとそれが余計な情報となって、読者は情景を描きにくくなる。また、「れる」「られる」などの助動詞は、受身、尊敬、可能など様々な意味があるので、場面に合った使い方を覚えて、読みやすい文章にする。	1
環境問題に関するDVD 鑑賞と感想文作成 温暖化はともない、「雨が滝のように降り、傘が役に立たず、車の運動が危険になるような」1時間の雨量が50ミリ以上の「ゲリラ豪雨」が、近年の10年ごとに2割ほど増え続けている。CO ₂ の排出量から、温暖化はともなう「ゲリラ豪雨」を8年前に予測したNHKスペシャルを見て、感想文を作成する。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 11～17「文の要素や必ずしも過去を表わさない過去形を学ぶ」 一つの文にたくさんの要素を入れると、内容が交錯して言いたいことが伝わらない。書くべき要素を整理し、時間の経過も分かりやすい文章にする。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 18～20「読点の打ち方」 「。」「，」「読点(とうてん)」という。句点は文の終わりに付けるので、間違えることはほとんどない。ここでは文の要素を見ながら、読点をどこに打つたらいいか、を考える。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 21～26「『てにをは』を正しく使って文章を書く①」 主語を表すと言われる助詞「は」と「が」がある。ところが、「は」は必ずしも主語を表わさないもので、「は」の役割について学ぶ。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 26～32「『てにをは』を正しく使って文章を書く②」 「主題や課題の提示」を表す助詞「は」を使った文は、主題の説明や課題の解答を書かなくてはならないので、冗長になりやすい。そこで、「は」のつく文の語順について考える。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 33～37「書き言葉と話し言葉腔を区別して、日本語の正しい書き方を覚える①」 「こそあど」とは、語の最初に「こそあど」がつく指示語のことである。意味を理解して使うと、内容を端的に言い表すことができる。	1
テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』: Lesson 38～44「日本語の正しい書き方を覚える②」 「する」と「させる」の違い、否定表現の役割、「しかし」の働き、などについて考える。	1

テキスト『恥ずかしくない文章が書ける』:Lesson 45～47「日本語の正しい書き方を覚える③」間違った敬語、間違えやすい慣用句、数字表記の基準、などについて学ぶ。	1
レポートに関するパワーポイント講義の後、ポイントを押さえてレポートを作成するレポートに関する講義の後、レポートの形式を念頭に入れて、下書きを始める。	1
文章・表現・形式を点検する レポートの下書きを完成させ、文章・表現・形式をチェックする。特に、各文章の主語と述語がしっかり対応していることを確認する。	1
レポートを自己評価する 主語と述語がしっかり対応していることを確認した後、レポートを清書し、自己評価する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	心理学概論	
担当教員の実務経験	障害者支援施設勤務経験	
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	現代社会が抱えるさまざまな問題を心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」という3つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学修していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その成り立ち体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。	
授業の到達目標	心理学とはどのような学問か、その成り立ち体系を知ることができ、かつ考え方について理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	手島茂樹・渡邊映子編著『スタンダード心理学 ―基礎から応用まで―』おうふう出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
心理学とは何かについて、学修する。教科書 pp.1-15 を通読し、定義、研究対象、実証科学、応用分野を理解していく。特に心理学の対象が変化していく歴史的な変遷並びに実証科学という面について学ぶ。		1
第1部の「心の仕組み」領域として、ここでは「認知心理学」を取り上げる。教科書pp.17-42 を通読し、「知覚」「記憶」「思考」「動機づけと情動」といった基礎的な事柄について理解していく。		1
「発達心理学」の前半を取り上げる。教科書pp.45-50 を通読し、まず発達とはどのような現象かを学び、次に乳幼児期と児童期の発達課題を理解する。どのようにかわるか、考えてみる。		1
「発達心理学」の後半を取り上げる。教科書pp.51-67 を通読し、思春期・青年期並びに老人期までの発達内容を学ぶ。特に青年期の心的な特徴とその対応や老人期の心的な特徴について学ぶ。		1
人間の個は社会の中にあると言える。そこで、心の仕組みの最後として「社会心理学」について学ぶ。教科書pp.69-89 を通読し、対人関係と集団で生じる人間の行動について学ぶ。		1
第2部の「心の問題を紐解く」領域として、まず「人格心理学」の前半から取り上げる。教科書pp.93-108 を通読し、性格とは何か、そのとらえ方の理論、そして性格の形成の問題について学ぶ。		1
「人格心理学」の後半を取り上げる。教科書pp.108-113 を通読し、性格のアセスメントの仕方について学ぶ。また、性格は変化するかという基本的な問題について考える。		1
「教育心理学」を取り上げる。教科書pp.117-140 を通読し、学習の問題と学級集団の心理的な課題を学ぶ。また、いじめや不登校等の学校社会での問題も取り上げる。		1
「家族心理学」を取り上げる。教科書pp.143-169 を通読し、親子関係と夫婦関係を学ぶ。親子関係では特に親子の愛着関係と子育て支援、夫婦関係では、結婚をめぐる最近の動向を知り、それがどのようなことに結びついているか学ぶ。		1
「産業・組織心理学」を取り上げる。教科書pp.173-184 を通読し、組織の中での行動、リーダーシップにまつわる心理学上の問題、並びに消費者行動について学ぶ。		1
「犯罪心理学」を取り上げる。教科書pp.187-209 を通読し、犯罪捜査に心理学がどのように貢献しているか、また犯罪者矯正に心理学がどのように貢献しているか学ぶ。		1
第3部の「心のケアと支援」領域として、まず「臨床心理学」の前半を取り上げる。教科書pp.211-228 を通読し、不適応行動が生じるメカニズム並びに病的な行動について学ぶ。		1
「臨床心理学」の後半を取り上げる。教科書pp.229-235 を通読し、心理療法の基本的な流派を学ぶ。また、ここでは心理療法の基礎基本を押さえる。		1

「健康心理学」を取り上げる。教科書pp.239-261 を通読し、現代社会のストレス対処どのように心理学が貢献しているか、またソーシャルサポートについて学ぶ。	1
「福祉心理学」を取り上げる。教科書pp.263-285 を通読して、心理学が福祉分野にどのように貢献しているかを学ぶ。障害者、高齢者、児童の福祉の心理学の貢献を取り上げる。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	発達心理学	
担当教員の実務経験	障害者支援施設勤務経験	
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、及び高齢者の心理を理解し、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。	
授業の到達目標	認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、及び高齢者の心理を理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		
エリクソンの生涯発達理論について学ぶ (該当箇所:pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200) エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。		1
ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える(該当箇所:p.51, pp.62-63) ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。		1
ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ(該当箇所:p.23, pp.24-25, pp.56-57) 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。		1
胎児期の特徴を捉える(該当箇所:テキストpp.2-21) 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。		1
乳児期の特徴を捉える(該当箇所:テキストpp.14-41) 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかになってきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。		1
幼児期の特徴を捉える(該当箇所:テキストpp.42-81) 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力(数概念や自己中心性の脱却)の発達などについて理解する。		1
児童期の特徴を捉える(該当箇所:テキストpp.82-101) 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。		1
思春期～青年期の特徴を捉える(該当箇所:テキストpp.102-121) 第二性徴に伴う身体変化と心理的变化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。		1
成人期の特徴を捉える(該当箇所:テキストpp.122-141) エリクソンのいう「親密性VS 孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年の動向も併せて理解する。		1

壮年期～老年期 の特徴を捉える（該当箇所:テキストpp.142-161） 夫婦をめぐり心理(婚姻関係の継続と破綻)や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション(SNS)について学ぶ。	1
老年期の特徴を捉える（該当箇所:テキストpp.148-162） 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。	1
発達の障害（該当箇所:テキストp.168） 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。	1
子ども虐待（該当箇所:テキストp.162） 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。	1
現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める（該当箇所:テキストpp.162-181） 子どもをめぐり臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。	1
発達心理学における発達を考える（該当箇所:テキストpp.189-190,pp.192-199） 今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	人体の構造と機能及び疾病	
担当教員の実務経験	看護師経験	
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	近年、医学・医療に関するニーズは高まっており、医療、介護、保健、福祉といった専門的分野はもちろん、教育や一般社会組織の現場でも最低限の知識と技術が要求される。本科目では人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、日常業務で生かせる基本的な医学的知識の習得を目的とする。	
授業の到達目標	生活習慣病や感染症等の病気についての理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
イントロダクション：命と医学・医療、医学・医療の歴史 病気とはどういうことか考え、医学と医療は何をするのか定義する。医学・医療の歴史を振り返り、将来の方向性について、終末期医療、再生医療を含めて考える。		1
心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要。体液・血液の性状。呼吸器系。循環器系。機能と代表的な関連疾患 人体を部位別に分け、存在する各種臓器・組織の構造と機能の概略を理解する。生体活動を維持するための体液（血液を含む細胞外液、細胞内液）の恒常性、呼吸器・循環器系の相互関連を理解し、代表的な疾患を学ぶ。		1
心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患 消化器系（消化管、肝臓、膵臓など）の構造と機能（消化・吸収）について理解し、栄養素の機能について学ぶ。泌尿器系（腎臓、膀胱）の構造機能から、排泄機能について学ぶ。さらに、これらの器官における代表的な疾患を知る。		1
心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患 身体の姿勢維持と運動に関与する骨格系と筋系の構造と機能を学び、筋収縮の機序と関連疾患を理解する。骨および筋の運動以外の機能とその障害についても学ぶ。		1
心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患 生体内の情報伝導・伝達機能を担う神経系と内分泌系の特性と調節機序を理解する。皮膚の構造と機能について理解し、障害の発生原因について考察する。		1
疾病と障害①：生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム） 生活習慣病の定義を理解し、メタボリックシンドロームの予防と対策について考える。悪性新生物（がん）の発症機序、リスク因子、対策について理解する。		1
疾病と障害②：先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害 精子・卵子の形成、受精から出生までの胎芽・胎児の成長過程をもとに、先天奇形の原因と対策について学ぶ。乳児期の成長における栄養・刺激提示の重要性から、障害発生のリスク因子と予防策について考察する。		1
疾病と障害③：感染症とその対策 感染、感染症を定義して、病原体の種類と特徴について学ぶ。特に、細菌とウイルスの違いを区別する。感染症発症の3原則をもとに、予防対策について考察する。		1
疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害 精神障害の診断マニュアル（DSM-5、ICD-10）について、なぜマニュアルが必要なのかを含めて理解する。精神障害の分類とそれぞれの特徴、治療方法について整理・理解する。		1

疾病と障害⑤：加齢と老化（老化性疾患、認知症、生活不活発病） 加齢を定義し、受精・分化・成長・成熟・老化について、段階ごとく理解する。高齢者に起こりやすい疾病について、身体面、メンタル面に関連するものを整理し、進化および成長との関連を含めて理解するとともに、その予防策について考察する。	1
疾病と障害⑥：老化性疾患（骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など） 高齢者に多い疾患（老化性疾患）のうち、身体面を中心に、原因と対策について理解する。障害、特に内部障害に含まれる症状の発症率から、障害発生の原因と対策について考察する。ICF とリハビリテーションについても理解する。	1
疾病と障害⑦：ストレス性疾患、免疫異常、難病 ストレス刺激、ストレスを定義し、代表的なストレス性疾患について理解する。免疫・自律神経機能の関連から、ストレスと疾病リスクとの関連について考察する。	1
日本人の健康状態と寿命：現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測 平均寿命の変遷、栄養状態をもとに、日本人の、現在と将来の健康状態について理解する。健康とはどういう状態なのかについて、WHO の定義の是非を含めて考察する。	1
健康づくり：健康度の向上、健康寿命延長のための活動 老化による機能低下、および健康寿命と寿命の定義を理解し、健康度上昇のための活動にはどのようなものがあるか考察する。	1
最新の医学情報 生きていること、また命を巡る様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。 総括医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点で考察する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	心理学統計法	
担当教員の実務経験	金融機関での数理統計業務経験	
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	心理学で用いられる統計手法について、その基本的な考え方や理論を学び、統計に関する基礎的な知識を習得できるよう、心理学における統計の概要を理解する。	
授業の到達目標	統計手法について、その基本的な考え方や理論を学び、統計に関する基礎的な知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	山田剛史、村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
心理学における心理統計の役割 pp.6-12 心理学において、心理統計がどのような役割を果たしているのかについて学修する。心を数字に置き換えること(尺度化)、データのまとめ作業(数値要約)などを通してデータの特徴を記述すること(記述統計)や、データの背後にある情報についての推測(推測統計)など、心理学はデータの学問であることを理解する。		1
データとは データの役割 pp.18-29 データに様々な種類があることについて学修する。具体的には質的変数・量的変数の区別がまずできるようになることであるが、心理統計においては、この質的・量的の二分法を超え、4つの尺度水準(比率尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)があり、それぞれの尺度水準ごとに可能な演算が異なることについて理解する。		1
代表値（平均値、中央値、最頻値） pp.30-33 データの数値要約、要約統計量の1つとしての代表値について学修する。データ全体のもつ情報を1つの値にまとめる作業を数値要約といい、数値要約によって要約された値のことを要約統計量と呼ぶ。ここでは、3つの代表値(平均値、中央値、最頻値)について学修する。それぞれの代表値の特徴を理解するとともに、それぞれの代表値の長所短所、使い分けについて理解する。		1
散布度（分散、標準偏差） pp.34-37 データの散らばりについての数値的指標である散布度について学修する。平均からの偏差をどのように処理するかにより、範囲、分散、標準偏差などの指標が考えられる。特に、心理統計においては、後に学ぶこととなる推測統計との兼ね合いから標準偏差が用いられることが多いため、標準偏差の理解が重要になる。		1
標準化と偏差値の求め方 pp.38-43 標準化について学修する。データを標準化することの必要性、意義、利用方法について理解する。標準得点を算出することにより平均、分散の異なる集団のデータを同じものさしによって比較することが可能となる。標準得点の応用的使用法である偏差値についての学修もここで行う。		1
正規分布の特徴とその利用 pp.80-89 心理統計において最も重要であり、かつ最も頻繁に用いられる確率分布である正規分布について学修する。正規分布の特徴について理解するとともに、正規分布と標準偏差との関係、標準正規分布と標準得点との関係について理解する。標準正規分布と標準得点との関係は標準正規分布表を用いることによって理解が進むため、標準正規分布表の見方についてもここで理解する。		1
散布図、共分散と相関係数 pp.44-55 2変数の関係を示す数値的指標である共分散と相関係数について学修する。これまでは1変数の特徴の記述方法を学んできたが、ここでは2変数の関係の記述方法について学修する。2変数の関係を図示するための散布図の書き方と、散布図において現れる2変数の直線的関係である相関関係について学修する。		1
相関係数の見方と、正の相関・負の相関、クロス集計表と連関 pp.52-55, 62-65 前節で学んだ相関係数、特にピアソンの積率相関係数についてさらに学修を深める。共分散から相関係数を求める方法、相関係数の取りうる範囲、相関係数の値の評価、相関係数と散布図との関係について学修する。また2変数が共に質的変数である場合の集計方法であるクロス集計表と、2つの質的変数の関係を示す指標である連関と連関係数についても学修する。		1

注意すべき相関、因果関係と相関関係 pp.56-59 相関係数を評価する際の注意点について学修する。具体的には、外れ値の影響、擬似相関(偽相関)、偏相関、層別相関、選抜効果(切断効果)などについて注意すべき点について理解する。また、相関関係を解釈する際に、留意しなければならない因果関係と相関関係の違いについてもここで理解する。	1
記述統計から推測統計へ pp.68-107 記述統計と推測統計との違いを中心に、主に推測統計について学修する。これまで学修した事項はすべて記述統計に関するものであった。これ以降は手元のデータの背後にある、さらに大きな対象について推測する推測統計について学修する。母集団と標本との関係、標本抽出、標本分布と標準誤差、不偏分散について学修する。	1
統計的仮説検定 pp.108-125 心理学をはじめとする科学における仮説の検証方法の一つである、統計的仮説検定について学修する。帰無仮説と対立仮説、有意水準と有意確率、採択と棄却、両側検定と片側検定、第一種の過誤と第二種の過誤などについて学修する。特にこの学修事項はレポート課題とも密接に関係しているため、しっかりと学修理解する必要がある。	1
t 検定 pp.144-161 様々なt 検定について学修する。1 つの平均値の差に関する検定を行う場合、母分散が未知の場合にはt 検定を行う必要がある。同様に、2 つの平均値の差に関する検定を行う場合にもt 検定を行う。2 つの平均値の比較を行う場合には2 つの平均値が得られた群間に対応がある場合とない場合とでは行うt 検定が異なる。相関係数の検定(無相関検定)の場合にもt 検定を利用することができる。	1
実験計画法 pp.174-177 代表的な実験計画法について学修する。要因、水準がそれぞれどのようなものであるのかを理解する。被験者間計画、被験者内計画の違いとそれぞれの長所、短所について理解する。また、一要因、二要因の実験計画の違いについて理解するとともに、二要因の実験計画においては主効果と交互作用に留意する必要があることについても注意する。	1
分散分析(一要因) pp.162-209 3 つ以上の平均値の比較を行う際に用いられる分散分析について学修する。ここでは分散分析が「分散」分析と呼ばれる理由について理解する。データの散らばりである分散を平方和として捉えることにより、データ全体の分散を群間の分散と群内の分散、個人差の分散などに分解することが可能になる。	1
分散分析(二要因) pp.162-209 3 つ以上の平均値の比較を行う際に用いられる分散分析について学修する。一要因の分散分析と異なり、二要因の分散分析では交互作用の分散も考慮する必要がある。また、一要因の分散分析においては、被験者間計画と被験者内計画の二種類のみであったが、二要因の分散分析の場合にはさらに混合計画が加わるため、それらの違いについてきちんと理解することが重要になる。	1
レポート作成、添削指導	15
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	レクリエーション指導論（レクリエーション・インストラクター養成講習）	
実務経験	秋田県レクリエーション協会講師	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科・心理福祉学科・保育児童学科 1 年	
授業時間数・単位数	35 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	レクリエーション理論や支援法を、さまざまなレクリエーション活動を通して学ぶ。最終的にはプログラムを立案し、実践（検定）・評価を行う。	
授業の到達目標	支援者に必要な知識や演出方法を理解し、レクリエーション素材の有効的な活用方法やプログラムの組立て方、実技実践方法を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、安全に演習への指示ができる50%、スポーツリーダー養成講座受講30%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	「楽しさを通した心の元気づくり」 他に 1 クールごとに資料作成	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
レク概論～レクリエーションとレクリエーションインストラクター～		1
レク理論Ⅲ～レクインストラクターの役割～		1
レク理論Ⅱ～アイスブレイキング理論編～		1
レク支援法Ⅰ～ホスピタリティ実技①～		1
レク理論Ⅰ～ホスピタリティ理論編～		1
レク支援法Ⅱ～ホスピタリティ実技②～		1
楽しさと心の元気づくりの理論Ⅰ		1
レク支援法Ⅶ～対象者の相互作用の活用～		1
レク支援法Ⅴ～アクティビティ選択編～		1
レク活動習得法Ⅰ～CSSプロセス編～		1
レク支援Ⅵ～アクティビティ展開編～		1
レク活動習得法Ⅷ～新聞紙編～		1
レク活動習得法Ⅱ～タップダンス編～		1
レク活動支援Ⅲ～高齢者編～		1
楽しさと心の健康づくりの理論Ⅱ～地域とレク～		1
レク支援法Ⅷ～ネイチャーゲーム編～		1
レク活動習得法Ⅶ～レク運動の制度について～		1
レク活動習得法Ⅲ～太極拳編～		1
レク活動習得法Ⅳ～チャレンジ・ザ・ゲーム編～		1
レク活動習得法Ⅵ～指導案と評価編～		1
レクプログラム立案法Ⅰ～集団プログラム編～		1
レクプログラム立案法Ⅱ～地域事業編～		1
レクプログラム立案法Ⅲ～総合編～		1
モデルプログラム体験Ⅰ～キャンプ編～		1

モデルプログラム体験Ⅱ～クラフト編～	1
安全管理の必要性について	1
レク活動習得法Ⅴ～レクダンス～	1
レク支援法Ⅵ ～レクプログラムのアレンジ編～	1
レク支援実践法Ⅰ～元祖！ソング～	1
レク支援実践法Ⅱ～グループ指導演習①～	1
レク支援実践法Ⅲ～グループ指導演習②～	1
レク支援実践法Ⅵ～グループ指導演習③～	1
レク支援実践法Ⅴ～グループ指導演習④～	1
特別講義	1
合計	35
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教養基礎演習Ⅰ	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目では、「教養を身につけるための一環として、①国語問題(間違えやすい漢字や熟語、文学史、読解など)②計算問題(数学、物理、化学、数的推理など)③英語問題(間違えやすい単語や熟語、ことわざ、長文読解、英作文など)④資料問題(グラフや表からの情報の読み取りなど)を解いたり、⑤小論文(自己紹介文、報告書、感想文など)を作成したりしながら、基礎学力を身につける。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解し、応用力を高める。さらに、「教養」とは何かを再確認し、それを身につけることの意義についても考察する。	
授業の到達目標	「教養」とは何かを再確認し、それを身につけることの意義について理解し、科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	時事通信出版局『一般教養の要点理解』時事通信社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
教養というと、主要5科目の知識を身につけることを連想する人も多いかもしれないが、まずは辞書などで調べてみよう。実際に調べてみると、新たな発見があり、奥が深いことに気づく筈である。		1
教養を身につけることの意義については、その人の職種、価値観、人生観などによっても異なる筈である。したがって、他者の意見を参考にしながらも、自分の考えをまとめてみるのが重要である。		1
国語問題を解くための技法や留意点については、実際に問題を解いてみないと実感が湧かないものである。このように、体験的な学習をすることによって、独創的な技法や留意点が見えてくる筈である。		1
国語問題では、間違えやすい漢字や熟語、出題頻度の高い文学史、読解力を試す問題などについて、具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようにしてほしい。		1
国語問題を数多く解いていくと、素晴らしい問題に出くわすことがある。そのような印象に残る問題については、多くの技法や留意点が含まれている場合が多いので、何度か読み返してみるとよい。		1
計算問題については、基礎から応用までさまざまである。また、数学はもちろん、物理、化学、生物、地学、数的推理、経済などの分野でも出題されているので、視野を広げて考えてほしい。		1
計算問題では、グラフや分数を用いたりすると、理解しやすくなる場合がある。このように、基本的な技法が応用問題などを解く際に役立っている場合があることを知ってほしい。		1
多くの計算問題を解いていると、芸術的ともいえる良問に出くわすことがある。そのような例を見つけた場合には、その具体例を紹介して頂きたい。		1
英語問題については、得意な人と苦手な人の差が大きい。それだけに、試験で差がつきやすい科目であるともいえる。グローバルな時代になった今日だけに、力を入れて取り組んでほしい。		1
英語問題は、単語、熟語、長文読解、英作文などに分類できる。それぞれの問題を実際に解いてみて、気が付いたことをまとめていくと、それらを解く際の技法や留意点が見えてくる筈である。		1
資料問題には、表やグラフが用いられる場合が多いが、それぞれの特色を理解することによって、新たな答えが導き出されることもあることを知ってほしい。		1
資料問題といっても、経済、数学、化学、生物など、さまざまな分野で使用されているのが現状である。これらの問題を実際に解いてみると、問題を解くための具体的な技法や留意点が見えてくる場合が多い。		1

小論文については、その目的によって、書き方に大きな違いが出てくる。例えば、単位取得のための試験では授業内容に合った答えが要求される場合が多く、就職試験では志望動機や仕事への熱意が伝わる内容が期待されている。	1
他人の小論文を読んでいると、それぞれの長所や短所が見えてくる場合が多い。また、実際に添削指導をもらって、新たな技法や留意点が見えてくる場合も多い筈である。	1
社会人基礎力とは何だろう。その解釈の仕方は人によって異なると思うが、それぞれの立場で失敗を恐れずに論じていくことが重要である。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	基礎演習Ⅰ	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理福祉学科1年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	4年間の学修の基礎として、心理学における様々なテーマに関して心理学で扱われている問題・理論・方法などについて基礎知識を広げる。教材で取り上げられているテーマに関しては、スクーリングにおいて、グループディスカッションすることによって、より実感をもてる理解をめざす。また、心理学の学習の応用として、具体的な心理テストや心理学的実験・調査を行い、心理学における体験的理解をもつ。ここでも、スクーリングにおけるグループワークによって、互いの知識を教授しあうことにより、さらなる理解を深めていく。	
授業の到達目標	心理学における様々なテーマに関して心理学で扱われている問題・理論・方法などについて基礎知識を習得し、科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	大野木裕明、他『調査実験 自分でできる心理学』ナカニシヤ出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
心理学の研究領域と研究方法について学修する。研究領域では、その近接領域との関連について、研究方法では、科学的実証法として、どのようなものがあるのかを学修する。教科書pp.142-145		1
交流分析における自我分析を学修する。教科書pp.87-88のプログラム・チェックリストを実施し、プロフィール票を作成した上で、教科書p.89を熟読し、普段の自分と照らし合わせて、自分の傾向について客観的に理解する。		1
社会的スキルの様々な側面について学修する。教科書p.83の質問紙に答えて、自分の社会的スキルを測定した上で、教科書p.84のデータを参考にしながら、客観的に自分の社会的スキルを評価し考察する。教科書p.82とp.85を熟読し、一般的な社会的スキルについて理解を深める。		1
自分の職業志向を知る。教科書p.121の質問紙に答えて、自分の職業に対する志向性を測定する。教科書pp.122-123を読み、そこにあるデータと比較しながら、自分の職業志向の特徴について考察する。		1
『対人認知』について学修する。教科書p.31の評定尺度により、父親(または母親)に対する自分の認知を測定した上で、教科書pp.30-32を読んで、結果を考察する。また、教科書pp.32-33を熟読し、暗黙裡の人格観や認知的複雑性について理解する。		1
『TATテスト』について学修する。教科書p.90の『やみかた』の指示に従い、自分で樹木画を描いてみる。教科書pp.90-93を熟読し、自分が描いた樹木画を客観的にアセスメントしてみる。		1
孤独感について学修する。教科書p.95の質問紙を実施し、自分が感じている孤独感を客観的に評価し、考察を加える。また、教科書p.96の論述を参考に孤独感の解消について考察する。		1
対人不安について学修する。教科書p.100の質問紙に答えて、自分が感じる対人不安について測定し、教科書pp.98-99を参照した上で、自分の対人不安について考察する。		1
『ストレスとその対応』について学修する。教科書p.102の『やみかた』に従い、pp.102-103にある質問紙に答えて、二つの観点からの自分のストレスを評価し、日常生活を振り返って考察する。また、教科書p.105を読み、自分の普段のコーピングの仕方を振り返る。		1
心理学における「先延ばし」研究を理解する。教科書p.117の質問紙に答えて、自分の先延ばし傾向について測定した上で、pp.118-119を熟読して、「先延ばし」の否定的・肯定的両側面について考察する。		1
人間の失敗傾向について学修する。教科書pp.57-58の質問紙を実施して、自分の失敗傾向の型を確認し、日常生活上の自分と照らし合わせて考察する。		1
心理学で「ヒューマンエラー」と呼ばれる日常生活でのちょっとした失敗、ミスが何故起こるのか、教科書pp.60-63を熟読し、自分なりに考察する。		1

自分のアイデンティティについて、社会的枠組みによる自己定義の観点から考察する。教科書p.49 の質問紙に記入し、その結果を考察する。	1
エリクソンの自我同一性について学修する。教科書 p.133 のマーシャの質問紙を実施し、自分の自我同一性地位を測定することを通して、自分のアイデンティティの確立の過程について考察する。	1
「 自分の名前のイメージ 」を素材として、自分についての理解を深める。教科書p27 の形容詞対によって、自分の名前のイメージを測定し、自分が持つイメージを客観的に検討する。	1
計	15
授業単位数	1